

胆膵系超音波内視鏡検査時のペチジン塩酸塩使用下でのミダゾラムとフルニトラゼパム使用時における影響の比較

飯塚病院 内視鏡センター ○衛藤 恵里、荒木 裕子、坂田 好子  
消化器内科 赤星 和也、安倍 俊行

#### 【はじめに】

肝胆膵領域疾患において胆膵系超音波内視鏡検査は対象の観察のみならず周囲臓器まで超音波断層観察が可能なためとても有効である。

当院消化器内科でも胆膵系の精査の際に超音波内視鏡検査（以下胆膵系 EUS）を行う。EUS 検査の際に全例鎮痛剤と鎮静剤を併用して検査を行う。当院では鎮痛剤としてペチジン塩酸塩、鎮静剤としてフルニトラゼパム（FNP）を胆膵系 EUS 時の鎮静併用メニューとしていたが、患者の帰宅時間の短縮や安全性を期待し、半減期の短いミダゾラム（MDZ）を使用。しかし、現場スタッフから、バイタルサインの変動や覚醒不良があり検査終了後の回復室（以下リカバリー）での滞在時間が長いのではないかと、という意見が多く聞かれたため再度、鎮静剤をフルニトラゼパムに変更した。

#### 【目的】

胆膵系疾患における EUS 検査は必須であり定期的に複数回受ける事も多く、患者の負担を減らす為に鎮痛剤としてペチジン塩酸塩を全例使用した上で、鎮静剤として FNP と MDZ 使用時におけるアウトカム（患者満足度、検査中、検査後のバイタルサイン、リカバリーでの滞在時間）について調査し、今後の検査に役立てたい。

#### 【対象、方法】

胆膵系 EUS を施行した症例のうち、鎮静剤として FNP もしくは MDZ を使用した患者各々 30 名ずつ。その際全例同医師、同看護師が検査介助についた症例とし、FNP、MDZ、における患者基本属性（年齢、性別、慎重、体重、BMI）、胆膵系 EUS に関する情報（薬剤使用量、鎮静効果、睡眠薬内服の有無、飲酒の有無、頻度、検査中とリカバリーでのバイタルサイン）、アウトカムにより 2 群の記述統計並びに比較を行った。

#### 【結果、考察】

リカバリー滞在平均時間は FNP で 68 分、MDZ で 73 分であった。年齢、性別、BMI、鎮静量で多変量解析を行ったが、両薬剤においてリカバリー滞在平均時間の有意差はなかった。患者満足度（3:満足、2:普通、1:苦痛）は、FNP が 3:87%、2:10%、1:3%、MDZ が 3:100% (p=0.11 NS)であった。

薬剤による合併症として低血圧(血圧 90mmHg)は、検査中は両群ともになく、検査後に FNP が 6.7%、MDZ が 13%で低血圧を認めた。(p=0.67 NS)

低酸素血症(酸素飽和度 95%以下)は、検査中 FNP が 90%、MDZ が 77%(p=0.3 NS)で認められた。検査後は FNP6.7%、MDZ が 6.7%(p=1 NS)で認められた。

#### 【結語】

胆膵系超音波内視鏡検査時のペチジン塩酸塩併用薬剤での FNP と MDZ の有効性に差はなかった。

【連絡先：〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町 3-83 TEL0949-22-3800】